

経営のヒント199 「創造が主体」と問題解決が主体」

問題より創造

P・センゲ氏がドラッカー氏との対話でこんなことを言っています。
大変、面白く、深い内容ですから、ご紹介します。

PF ドラッカー氏の「明日を支配するもの」を読んでいた時、非常に根源的なことを深く考えさせられました。

創造性は人生観に左右されますが、組織においては問題解決が創造性を阻害します。

企業は問題解決を最優先するため、創造という概念が損なわれるのです。

あなたがどう考えているかは分かりませんが、私は、組織や経営者がなぜ問題解決にそれほど注目するのか疑問に思います。

四半期報告書や月例報告書は問題を取り上げるだけです。

組織の認定システムや報償システムのほとんどは、誰がどんな問題を解決したかに注目します。

そしてもちろん組織は、些細な問題の解決に膨大な時間を割いています。

「創造が主体」と問題解決が主体」の根本的な違いは、本当に大きいのです。

ビジネススクールは過去 50 年間に、問題解決方法を教えてきました。

彼らは問題解決に徹し続けたのです。

この問題のルーツは、教育システム全体に由来する部分が大いと思われるからです。

正解と間違いを教えるのは、簡単なことです。

その決果、子供は、人生とは問題を解決し正解を得ることだと考えて成長します。

工学を学んでいた時、ある教授が言いました。

「工学の授業では、すべての物質について学ぶが、その先にデザインがある。

デザインはまったく発想が違う。デザインには、正解も誤答もない。

割り切れるものではないから、発想を 180 度変えなければならない。

制約を踏まえた上で可能性を考慮する必要がある。そのバランスが重要なんだ」

私たちは物事を見極め、機械を稼働させ、問題が起きれば是正することを求められています。

しかし、実際には、何かを作り出そうとする時に、**最も重要な展開の多くは予期せぬことなのです。**

驚きの展開をどう認識し対応するかが問題です。

まったく別のマインドセットが必要です。

予期せぬ出来事をむしろ歓迎すべきなのです。

DVD だからわかるドラッカーのマネジメント理論」PF ドラッカー +PM センゲ、宝島社より参照

<経営のヒント>

いかがですか？

あなたの思考は「創造が主体」ですか？

それとも「問題解決が主体」ですか？

現状維持しようとして、創造の可能性をダメにしていたんですね。

思い込みとメンタルモデルの問題があるんですね。

その対策は「体系的廃棄」というシステム化することの必要性と重要を痛感しました。

私は、創造が主体だと頭では理解していたが、現実には問題解決が主体に……なっていました。